

平成元年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成元年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成2年9月3日、家の光会館において開催した。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験12剤、適用性試験25剤、生育調節剤は、作

用性試験7剤、適用性試験5剤であった。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行なった。

その結果は、次表のとおりである。

平成元年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除 草 剤

I 小 麦 対 象

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. AKR-7012 水和 ・ジクロベニール……30% ・ジフルフェニカン……4%	「継」								・薬量と効果、 薬害の検討、 初年目。
2. Dowco 433 乳 ・フルロキシピル……30%	「実・継」 (前年通り)	一年生広 葉雑草	茎 葉	小麦5～ 6葉期	10～15ml	全 土 壌	寒冷地以 西(畑作、 水田裏作)	1) 体系処理: イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と 組合せて使用する。	・地域拡大。
3. Hoe-113 ディスパー ジョン ・成分未公開 ……60g/l	「継」								・成分未公開、 効果、薬害の 検討、初年目。

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量／a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意		
4. NC-323 水和 ・ピラゾスルフ ロンエチル ……2% ・ペンディメタ リン……50%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	15～18 g	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行つて均一に散 布する。	・地域拡大。 ・処理時期、薬 量と効果につ いて検討。	
5. NCA-256 水和 ・ピラゾスルフ ロンエチル ……10%	「実・継」	一年生広 葉雑草	土 壌	播 種 後	3～4 g	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行つて均一に散 布する。	・地域拡大。	
				小麦2～5 葉期(雑 草発生始 ～盛期)	2～3 g					寒地(畑 作)
					3～4 g					寒冷地、 温暖地東 部、暖地 (畑作、 水田裏作)
6. NY-712 水和 ・ピリデート ……40%	「実・継」	一年生広 葉雑草(ミ チアナギ を除く)	茎 葉	広葉雑草 2～3葉 期(但し、 寒冷地は 小麦2～ 3葉期)	20～30 g 〔但し、温 暖地西部 は20 g〕	全 土 壌	寒冷地以 西(畑作, 水田裏作)	1) 体系処理：イネ 科雑草に有効な 既登録除草剤と 組合せて使用す る。	・薬量と薬害の 検討。	
7. RSH-44 乳 ・ジフルフェニ カン…40 g/l ・トリフルラリ ン…400 g/l	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	20～25ml	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	寒冷地、 温暖地 (畑作、 水田裏作)	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行つて均一に散 布する。	・地域拡大。 ・生育期処理に ついては適用 草種の検討。	
			茎 葉	小麦2～ 3葉期			寒冷地 (畑作)			
8. BGX-816 水溶 ・ビアラホス ……8% ・グリホサート ……16%	「実」	一年生雑 草全般	雑草茎 葉	耕起前7 ～14日	50～60 g	全 土 壌	寒冷地、 温暖地 (畑作、水 田裏作)	1) 周辺作物への飛 散に注意する。		
9. MON-8794 液 ・グリホサート ……20%	「継」								・処理時期と効 果について検 討、初年目。	

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
10. PL-10 乳 ・ペンディメタ リン……15% ・リニュロン ……10%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	50~80m/l	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	温暖地以 西（水田 裏作）	1) 砕土，整地，覆 土をていねい に行って均一に散 布する。 2) ヤエムグラに効 果劣る場合があ る。	・草種と薬量の 検討。 ・地域拡大。
11. ANK-553 乳 ・ペンディメタ リン……30%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	播 種 後	30~50m/l	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	全域（畑 作，水田 裏作）	1) 覆土が著しく浅 い場合には薬害 が出やすいので 注意する。	・地域拡大。
				小麦1~ 2葉期， スズメノ テッポウ 1葉期ま で。	30~50m/l 〔但し， 寒地は30 ~40m/l〕	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	寒地，寒 冷地，温 暖地（畑 作，水田 裏作）	1) スズメノカタビ ラには効果劣る。	
12. CG-157水 和+CAT水和 ・成分未公開 ……1% ・CAT……50%	「継」								・成分未公開， 効果，薬害の 検討，初年目。
13. DPX-16 ドライフロ アブル ・チフェンスル フロンメチル ……75%	「実・継」	一年生広 葉雑草お よびスズ メノテッ ポウ	茎 葉	麦4葉~ 節間伸長 前，スズ メノテッ ポウ4~ 5葉まで。	0.5~1g	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	温暖地東 部（畑作， 水田裏作）	1) 体系処理：土壌 処理剤との体系 処理で使用する。 2) 単用処理の場合 は0.75~1gで の使用が望まし い。	・地域拡大。 ・薬量と効果， 薬害の検討。
						壤土~埴 土	温暖地西 部以西 （水田裏 作）		

II. 大 麦 類

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. NC-323 水和 ・ピラゾスル フロンエチル ……2% ・ペンディメタ リン……50%	「継」								・薬量と効果， 薬害の検討， 初年目。

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
2. NY-712 水和 ・ピリデート ……40%	「継」								・効果、薬害の再検討。
3. PL-10 乳 ・ペンディメタリン……15% ・リニュロン ……10%	「実・継」	一年生雑草全般	土 壌	播 種 後	50m/l 50～80m/l	壤土～埴土 暖地（水田裏作）	温暖地東部（畑作、水田裏作） 暖地（水田裏作）	1) 対象：二条大麦、六条大麦。 2) 砕土、整地、覆土をていねいに行き均一に散布する。 3) ヤエムグラに効果劣る場合がある。	・地域拡大。 ・適用土壌の拡大。 ・草種と薬量の検討。
4. RSH-44 乳 ・ジフルフェニカン…40g/l ・トリフルラリン…400 g/l	「実・継」	一年生雑草全般	土 壌	播 種 後	20～25m/l	全 土 壌〔砂土を除く〕	寒冷地、温暖地西部（畑作、水田裏作）	1) 対象：二条大麦、六条大麦、裸麦。 2) 砕土、整地、覆土をていねいに行き均一に散布する。	・地域拡大。 ・薬量と薬害の検討。
5. Hoe-866 液 ・グルホシネート……18.5%	「実・継」	一年生雑草全般	雑草茎葉	耕起前7～14日	30～50m/l	全 土 壌	温暖地東部（畑作）	1) 対象：二条大麦、六条大麦。 2) 周辺作物への飛散に注意する。	・地域拡大。 ・効果の確認。
6. MW-831 水溶 ・ビアラホス ……20%	「実」	一年生雑草全般	雑草茎葉	耕起前7～14日	30～50 g	全 土 壌	寒冷地以西（畑作、水田裏作）	1) 対象：二条大麦、六条大麦、裸麦。 2) 周辺作物への飛散に注意する。	
7. BAS-3510 Na 液 ・ペンタゾン ……40%	「実・継」	一年生広葉雑草	茎 葉	広葉雑草3～6葉期	10～20m/l	全 土 壌	温暖地以西（畑作、水田裏作）	1) 対象：二条大麦、裸麦。 2) 体系処理：イネ科雑草に有効な既登録除草剤と組合せて使用する。	・地域拡大。 ・草種による効果の確認。
8. DPX-16 ドライフロアブル ・チフェンスルフロメチル ……75%	「実・継」	一年生広葉雑草およびスズメノテッポウ	茎 葉	麦4葉～節間伸長前、スズメノテッポウ4～5葉まで。	0.5～1g	壤土～埴土〔但し、暖地は埴土を除く〕	寒冷地南部以西（畑作、水田裏作）	1) 対象：二条大麦、六条大麦、裸麦。 2) 体系処理：土壌処理剤との体系処理で使用する。 3) 単用処理の場合は0.75～1gでの使用が望ましい。	・地域拡大。 ・適用土壌の拡大。 ・薬量と効果、薬害の検討。

Ⅲ. い く さ

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. MB-206 粒 ・リニュロン …1.5%	「継」								・ 効果, 薬害の 検討, 初年目.
2. MC-79 粒 ・ビフェノックス……7%	「実・継」	冬 雑 草	土 壌 (湛水)	植付後冬 雑草発生 始期(ス ズメノテ ッポウ1 葉期)ま で	300 ~ 500 g	壤土~埴 土	温暖地西 部以西	1) 夏雑草対象除草 剤との組合せで 使用する.	・ 効果の確認.
		一年生雑 草全般 (夏雑草)		一年生夏 雑草発生 始期(3 ~4月)	300 ~ 500 g 〔但し, 温暖地西 部は400 ~500 g〕			1) 冬雑草対象除草 剤との組合せで 使用する.	

Ⅳ. 水 稲 刈 跡

薬 剤 名	判 定	使 用 基 準							継 の 内 容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. NHS-50 粒 ・塩素酸ナトリウム……50%	「実・継」	一年生雑 草全般	土 壌	水稻刈取 後10~20 日	2,000~ 2,500 g	全 土 壌	寒冷地, 温暖地	1) 均一に散布する.	
2. MW-831 水溶 ・ピアラホス ……20%	「実」	冬 雑 草	雑草茎 葉	稲刈取後 ~翌年耕 起前まで	50~75 g	全 土 壌	温暖地以 西		
		セ リ			75~ 100 g		温暖地西 部以西		
		ミズガヤ ツリ		稲刈取後 (ミズガ ヤツリ再 生後)~ 塊茎形成 始期(9 月下旬) まで			温暖地東 部, 暖地		

B. 生育調節剤

I. 小麦対象

薬剤名	判定	使用基準						継の内容
		処理法	処理時期	使用量/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
1. C.C.C.液 ・クロルメコート……46%	「実・継」 (従来通り)	茎葉	出穂前20～10日	50m ^l	全土壌	寒地	秋播小麦の倒伏軽減効果。	・効果の確認。
			出穂前40～20日	30～50 m ^l		寒冷地以西		
2. エテホン液 ・エテホン……10%	「実・継」 (前年通り)	茎葉	出穂始期	200～300 ppm 〔但し、寒地は200 ppm〕 <水量 5～10 l/a〔但し、寒地、寒冷地は10 l/a〕>	全土壌	全域	小麦対象。 倒伏軽減効果。	・処理時期、散布水量と効果の検討。
			穂ばらみ期～出穂始期	200 ppm <水量10 l/a>		寒冷地、温暖地		
3. KUH-833 F [ⓗ] , [ⓓ] フロアブル ・プロヘキサジオンCa [ⓗ] ……25% [ⓓ] ……5%	「継」							・薬量と効果の検討。
4. BR-10 液 ・ブラシノライド……10ppm	「継」							・効果の検討。
5. JRDC-694 乳 ・エピブラシノライド …0.005%	「継」							・効果の検討。

① —— は、本年度拡大または追加された部分を示す。なお、薬剤名の —— は、本年度はじめて使用基準の作成されたものである。

② ----- は、その一部が拡大されたものである。